

# セイヨウハバノリの養殖試験

## 南部海域海藻養殖技術開発

廣澤 晃・中西達也

海部郡では、カヤモノリ目のカヤモノリやセイヨウハバノリが地場を中心に消費され、一部は土産物として販売される。しかし、その生産は天然採取に依存しているため、年変動や生産量が制限されている。このため、県南部海域における有用藻類の養殖技術開発の一環としてセイヨウハバノリの養殖試験を実施した。

### 材料及び方法

#### 1 種網生産

種網の作成に用いた種は、2003年1月20日に海南町浅川地先の磯に生育する天然のセイヨウハバノリから採取した。採苗は、培養した配偶子をミキサーで細断して、海苔網(10m)2~4枚とともに屋外の採苗水槽(100lパンライト)に投入した。1~2ヶ月間止水で強めのエアレーションをおこない、栄養剤として市販品のポルフィラーコンコを0.3ml/lの濃度で用いた。(写真1,2)

#### 2 種網の張り込み(沖出し)

養殖試験は海南町浅川の大砂海岸で行なった。種網の張り込み方法は、砂質の海底に鉄筋棒で固定する方法と、海面の竹筏に張り込む方法を試みた。

### 結果及び考察

#### 1 2004年養殖試験結果

2003年10月22日に採苗を開始し、63日後の2003年12月24日に沖だした。採苗期間中の平均水温は15.8(25.2~3.5)であった。2004年1月21日(養殖期間28日)調査時のハバノリの平均藻体長は、海底張りで17.7cm(SD9.9)、竹筏で11.5cm(SD3.7)であった。また、収

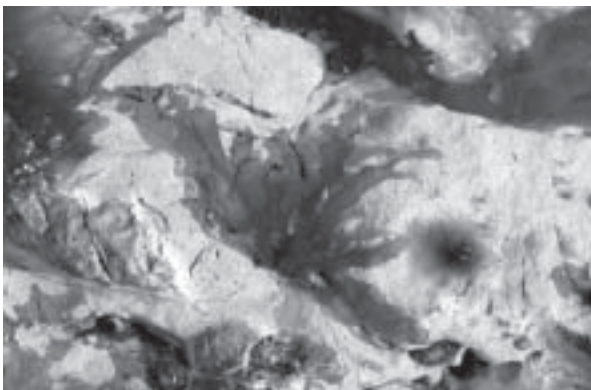


写真1 岩盤上に生育するセイヨウハバノリ  
(海南町大砂地先)



写真2 ハバノリ採苗状況(100lパンライト水槽)

量は、乾燥重量で海底張り0.13g/cm、竹筏0.08g/cmで、海苔網(20m)に換算するとそれぞれ5,100g(乾)/網、3,300g(乾)/網となった。(図1,3,写真3)

#### 2 2005年養殖試験結果

2004年11月15日に採苗を開始し、37日後の2004年12月22日に沖出した。採苗期間中の平均水温は14.7(22.5~7.5)であった。本年の養殖方法は海底張のみでおこなった。養殖開始後のハバノリの平均藻体長は、2005年1月11日(養殖期間20日)1.9cm(SD0.7)、同1月21日(同30日)8.5cm(SD4.2)、同2月9日(同49日)19.9cm(SD8.5)となった。また、収量は、乾燥重量で0.19g/cmで、海苔網(20m)に換算すると7,500g(乾)/網となった。なお、ハバノリの水分含有率は90.6%であった。養殖期間中の平均水温は14.4(17.7~11.4)であった。(図1,2,4,5,写真4,5)

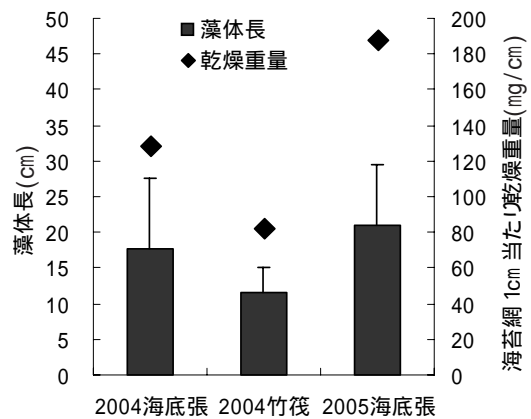


図1 セイヨウハバノリの藻体長と乾燥重量

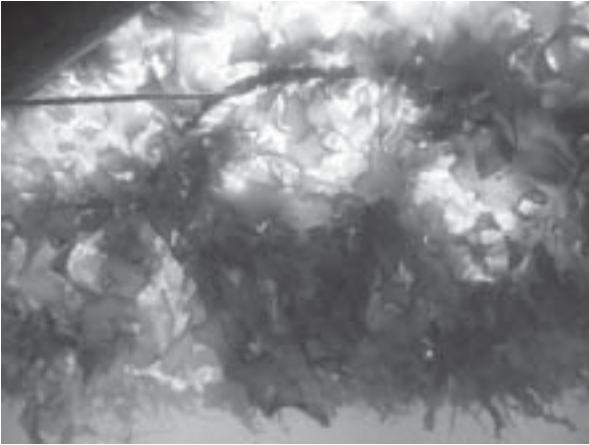


写真3 養殖網竹筏 (2004/1/21)

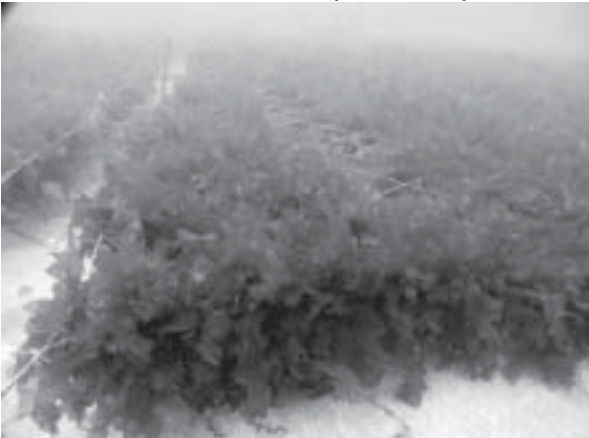


写真4 養殖網海底張り (2005/2/9)

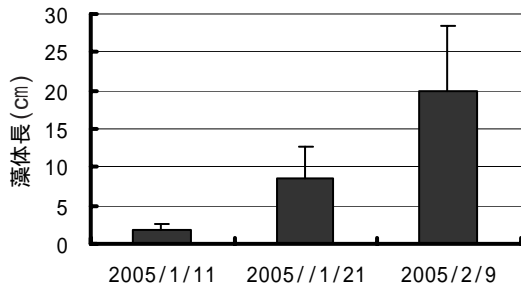


図2 ハバノリの藻体長の推移 (2005養殖試験)



写真5 ハバノリサンプル (2005/2/9)

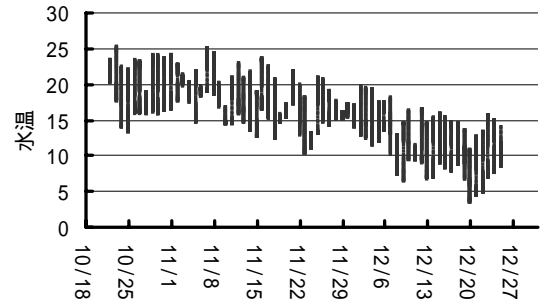


図3 採苗水槽100P水温 (2003/10/22-12/24)

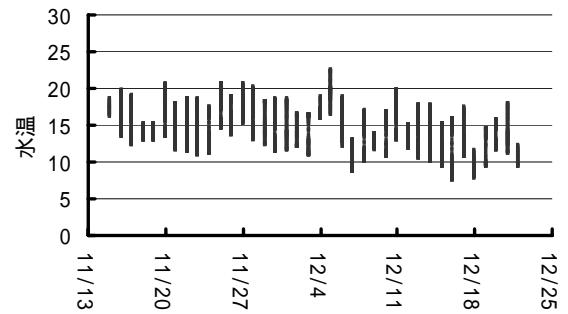


図4 採苗水槽100P水温 (2004/11/15-12/22)

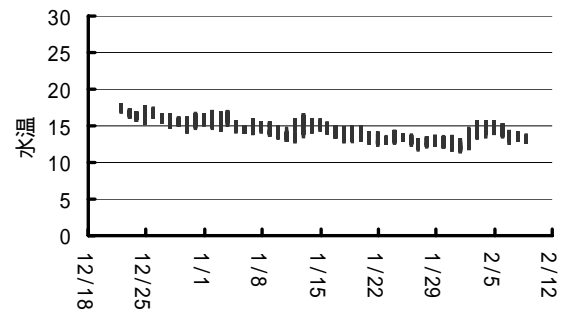


図5 大砂水温 (2004/11/15-2005/2/9)

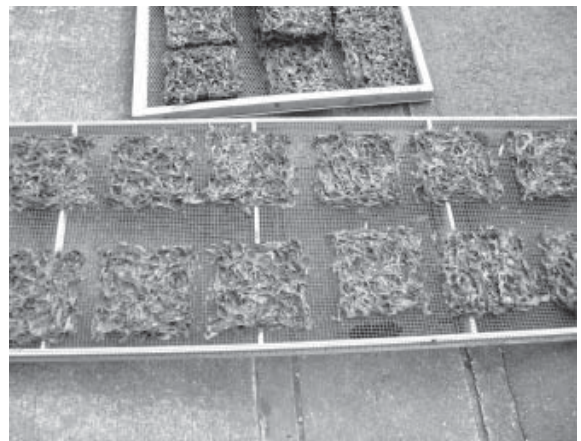


写真6 ハバノリ加工状況 (乾燥品)